



奈良の丘だより

横浜市立奈良の丘小学校

5月号

学校教育目標

笑顔いっぱい チャレンジいっぱい奈良の丘

- 自ら考え、進んで行動する子を育てます
- 互いに認め合い、高め合う子を育てます
- たくましく、共に生きる子を育てます

<http://www-local.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/naranooka/>

知的好奇心

校長 岩崎 健治

新緑がまぶしく、草花が美しく咲く季節となりました。子どもたちが元気に登校してくる姿を見ていると、自然と笑顔になります。

「1年生を迎える会」では、1年生は、2年生から笑顔の種とメダルをもらって、笑顔いっぱいになりました。6年生は、この会の前からリーダーシップを発揮し、1年生の給食開始から、後片付けの手伝いや1年生の教室掃除をしていました。

1年生は学校の様子に興味関心をもち学校探検をしています。廊下で会うと、「校長先生。ここはなにをすることでですか？」とたずねてきます。一生懸命に校内の図と照らし合わせ、どの部屋なのか楽しそうに探して、色を塗っていました。

5月に入ると、なかよし遠足や6年日光修学旅行、5年御殿場体験学習、4年愛川体験学習など様々な体験活動が始まります。人や物事にかかわること、自分から進んで実際にやってみること、もっと知りたいと思い試してみるなど、子どもたちにとって、知的好奇心を高めていくよい機会となります。知的好奇心が高いと日常生活の中で様々な学びを主体的に得られます。そのことで多様な考えも身身に付きやすく、視野も広がっていきます。

行事の中の体験活動に限らず、日常の学習でも、興味関心をもって学ぶことは、人や物事とのかわりが生まれ、感情を伴いながら実感的に物事を理解し、成長へとつながっていきます。

新たな発見や知的好奇心を呼び起こすことで、次の学習へと発展していく「気付き」や「探求心」も出てきます。物事に関心を抱き、もっと深く知りたいという気持ちをもつことは大切なことだといえます。

このような力を育むためには、自然や社会の現実に触れる体験だけでなく、様々な物事や人とのかわりによる多様な価値観に触れることが大切です。

子どもたちは、具体的な体験や事物とのかわりをよりどころとして、感動したり、驚いたりしながら、「なぜ、どうして」と興味関心をもったり、疑問に思ったりして知的好奇心を高める中で、実際の生活や社会、自然の在り方を学んでいきます。そこで得た知識や考え方を基に、実生活の様々な課題に取り組むことを通じて、自らを高め、よりよい生活を創り出していくことができるのだと思います。

これからも子どもたちが社会性を学びながら主体的に活動する場面を工夫してつくってきたいと考えています。

今後とも保護者の皆様、地域の皆様方のご理解と温かい支援を何卒、よろしくお願いいたします。



《色鮮やかなサツキツツジの花》